

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果
課題の改善に向けた取組の重点

1	調査結果を踏まえた今後の取組について	1
2	「課題の改善に向けた取組の重点」の活用	2
3	問題別調査結果【小学校 国語】	3
4	問題別調査結果【小学校 算数】	5
5	問題別調査結果【小学校 理科】	7
6	問題別調査結果【中学校 国語】	9
7	問題別調査結果【中学校 数学】	11
8	問題別調査結果【中学校 理科】	13
9	分析資料の活用方法（S-P表・学力層分析）	15

令和7年8月6日

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課

調査結果を踏まえた今後の取組について

各学校では、全国学力・学習状況調査の結果を分析して、子ども一人ひとりの学びの状況を適切に把握するとともに、各学校の課題に応じた取組を進めていただくことが重要です。

子どもたちの「分かった」「できた」という喜びや達成感につながるよう、ともに取り組んでいきましょう。

調査結果を踏まえた2学期からの取組

○ 各教科等における「学んだことを基に、自分の考えをまとめ、表現したり記述したりする」学びの充実を

◆ 小学校低学年からの国語科を中心とした言語活動の充実

小学校低学年から、言語能力を育成する中核的な教科である国語科を要とし、各教科等の特質に応じて言語活動の充実を図ります。

◆ I C Tの効果的な活用で授業をアップデート

子どもたちが課題の解決に向けて、互いの考えを共有したり、まとめたり、表現したりするなどの学習場面において、I C Tの効果的な活用を図ります。



○ 子ども一人ひとりが学び方を身に付け、「ワクワク」する学びへ

子どもたちが自らの学習理解の状況を把握し、自ら計画を立て、自分に合った学び方で、主体的に学習に取り組むことができる指導を充実することで、家庭での学びも「ワクワク」となるように取り組みます。



○ 調査結果から課題を焦点化し、学校全体での実践を

「解答状況整理表（S-P表）」や「学力層（四分位）分析グラフ」等の分析資料を活用し、基礎的・基本的な知識・技能の定着等の学習状況を把握して、各学校の課題を焦点化します。その上で子ども一人ひとりの能力を引き出せるよう「重点的に指導すべき点」を明らかにし、教職員全体で共通理解を図り、学校全体で実践します。

「課題の改善に向けた取組の重点」の活用

① 分析資料等を活用し、課題を焦点化する。

・「調査結果概況」「問題別調査結果」だけでなく、S-P表、学力層（四分位）分析グラフ等の分析資料を活用し、学校として大まかな課題ではなく、「重点的に指導すべきと考えられる設問」を絞りこみ、課題をできるだけ焦点化します。

② 「重点的に指導すべき点」を明らかにする。

・焦点化した課題について、「この設問を解くためには、どのような力が必要か」「その力を付けるためには、どのような指導が適切か」等を考え、「重点的に指導すべき点」を明らかにします。
・平均正答率だけでなく、解答類型等も参考にしながら、誤答の要因を分析します。

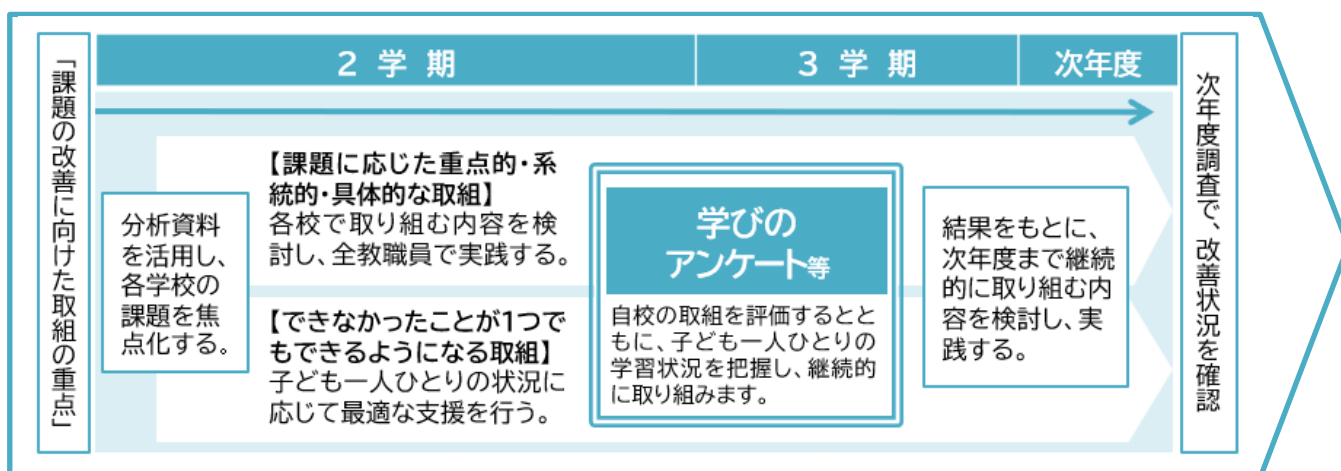
③ 2学期に全教職員で取り組む具体的な内容を検討し、実践する。

・明らかになった「重点的に指導すべき点」を基に、全教職員が各自の授業実践で取り組むことを出し合いながら、協議をします。学校や学年で統一して取り組む内容は、できるだけ焦点化・具体化を図り、全職員が日常的に実践できるようにします。

④ 取組を定期的に検証・改善する。

・短時間でも、取組について各自が振り返る時間を設定し、成果や課題、効果を実感した取組、実践上の悩み等を共有し、明日からの実践につなげます。

■「課題の改善に向けた取組の重点」に係るスケジュール

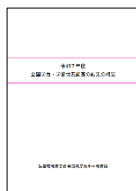


■本資料の他に参考にしていただきたい資料

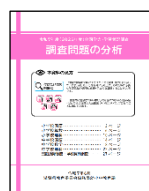
関連資料（国立教育政策研究所作成）

関連資料（県教育委員会作成）

調査結果の概要
本県の調査結果の概要（成果・課題）をまとめています。



調査問題の分析
問題を分析し、指導改善のポイントや、授業における問題の活用例を示しています。



6月に各学校ヘデータで送付済み

国立教育政策研究所作成の以下の資料も参考にしてください。

- ◆ 調査問題・正答例・解説資料
- ◆ 報告書【速報版】・調査結果資料
- ◆ 授業アイデア例一覧（報告書に掲載）
※報告書【確定版】は8/18（月）掲載



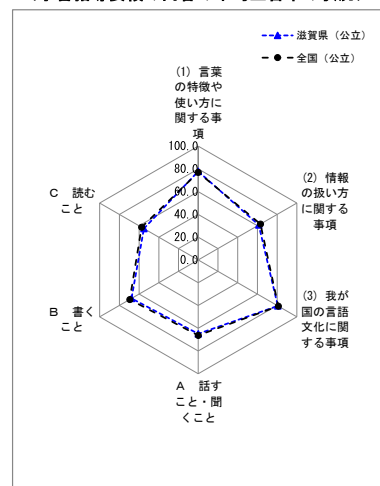
・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	滋賀県（公立）	全国（公立）	対象児童数	滋賀県（公立）	全国（公立）
	220	18,265		12,341	936,137

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
				滋賀県(公立)	全国(公立)
全体			14	65	66.8
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	77.8	76.9
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	1	61.4	63.1
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	80.7	81.2
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	64.9	66.3
		B 書くこと	3	67.7	69.5
		C 読むこと	4	55.2	57.5
評価の観点	知識・技能	4	74.4	74.5	
	思考・判断・表現	10	61.9	63.8	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	9	63.1	64.7	
	短答式	3	78.6	78.5	
	記述式	2	56.1	58.8	

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)	
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	滋賀県（公立）	全国（公立）	滋賀県（公立）	全国（公立）
			(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	(2) 情報の扱い方にに関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと										
1一	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる				5・6ア				○		○			52.1	53.3	0.8	0.5
1二	【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる		5・6イ						○		○			61.4	63.1	0.8	0.5
1三(1)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部Aのように発言した目的として適切なものを選択する	自分が聞くとうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる				5・6エ				○		○			70.2	71.8	0.8	0.6
1三(2)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部Bのように発言した理由として適切なものを選択する	話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				5・6エ				○		○			72.5	73.7	0.8	0.6
2一	【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる					3・4イ			○		○			62.7	65.5	1.1	0.8
2二	山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する	図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる					5・6エ			○		○			80.7	81.8	1.1	0.8
2三	【ちらし】の二重傍線部を、【調べたこと】を基に詳しく書く	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる					5・6ウ			○			○		59.6	61.3	5.0	5.0
2四ア	【ちらし】の下線部Aを、漢字を使って書き直す(二のみ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6エ							○			○		80.6	81.6	7.3	7.2
2四イ	【ちらし】の下線部Bを、漢字を使って書き直す(あついで)		5・6エ							○			○		75.1	72.1	4.2	4.3
3一	【資料1】を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる			5・6ウ					○		○			80.7	81.2	1.7	1.3
3二(1)	【木村さんのメモ】の空欄Aに入る適切な言葉を【資料2】の中から書き抜く	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる						1・2ア		○			○		80.0	81.6	3.3	2.9
3二(2)	【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄Bに当てはまる内容として適切なものを選択する	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる					5・6ア			○		○			50.1	51.3	3.0	2.4
3三(1)	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる					5・6ウ			○		○			38.0	40.8	4.3	3.4
3三(2)	【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる					5・6ウ			○			○		52.6	56.3	17.7	16.2

【小学校 国語】調査問題の結果から

■顕著な課題が見られた設問

- ③三(2)資料を読み、自分が納得したことについてその理由を明確にして書く設問における正答率は52.6%(全国比-3.7)であり、無解答率は17.7%である。複数の資料を結び付けたり、文章と図表などを結び付けたりして、必要な情報を見付けて自分の考えを記述することに課題が見られた。

課題の改善に向けた取組

複数の資料に書かれていることを、どの部分と結び付くのかを明らかにし、情報と情報とがどのような関係にあるかを捉えた上で、必要な情報を見付ける学習活動を充実させる。

■他者との対話を通して、必要な情報を再確認しながら、資料を読み直す活動を設ける



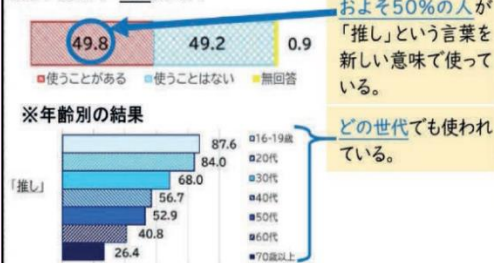
資料1で筆者が述べている「言葉は生きている」とは
どういうことなのかな？

資料1の「言葉は生きている」と資料5がどのように関わっているか、話し合ってみましょう。
【読むための視点(例)】を参考にするのもよいですね。



情報を整理したり、再構成したりして
【読むための視点(例)】

資料5 「推し」を使うことがあるか
「気に入って応援している人や物」といった
新しい意味で「推し」と言う



資料5のグラフからは、新しい意味で「推し」を使っている人が、およそ50%いることが分かったよ。
新しい意味で言葉を使う人が増えるということが、「言葉は生きている」ということとつながっているよ。



「年齢別の結果」のグラフも、資料1の文章と結び付けて読むことができそうじゃないかな。



グラフからは、「推し」がどの世代でも使われている言葉だと分かるよ。



そうか。言葉は変わりながらも、いろんな世代に受け入れられているということが、「言葉は生きている」ということにつながっているんだ。資料5を読むと、「言葉は生きている」ということが具体的に分かるね。

資料と資料とを結び付けて読むことで、理解が深まりましたね。



資料が文章の場合でも、図表やグラフと同じように、丸や四角で囲んだり、線などでつないだりして、どの部分と結び付くかを明らかにすると分かりやすかったね。

- 「共通」の関係
⇒ 言いたいことは、それぞれ同じだね。
- 「相違」の関係
⇒ 比べると、筆者の考えが全くちがうよ。
- 「順序」の関係
⇒ 年号に着目すると、資料Aが資料Bより先の出来事だね。
- 「考えと理由や事例」の関係
⇒ 資料Aのことが、資料Bに具体的に書いてあったよ。
- 「全体と中心」の関係
⇒ 資料Aには、資料Bの出来事の中心的内容が書いてあるよ。
- 「原因と結果」の関係
⇒ 資料Aのようになったのは、資料Bに書いてあったことが原因なんだ。

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	滋賀県（公立）	全国（公立）	対象児童数	滋賀県（公立）	全国（公立）
	220	18,265		12,346	936,399

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			滋賀県（公立）	全国（公立）
全体		16	57	58.0
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	61.2	62.3
	B 図形	4	55.7	56.2
	C 測定	2	52.9	54.8
	C 変化と関係	3	54.9	57.5
	D データの活用	5	60.6	62.6
評価の観点	知識・技能	9	64.9	65.5
	思考・判断・表現	7	46.5	48.3
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	6	66.2	67.2
	短答式	6	63.3	64.0
	記述式	4	33.1	34.9

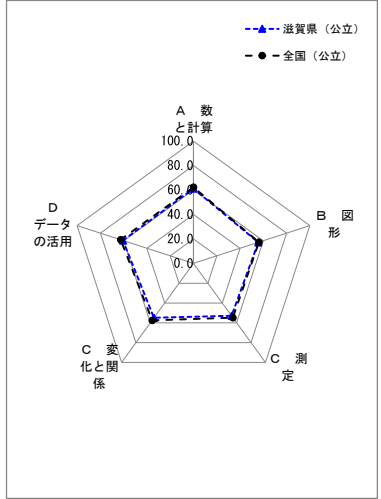
（注）「学習指導要領の領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率（％）		無解答率（％）	
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	滋賀県（公立）	全国（公立）	滋賀県（公立）	全国（公立）
1（1）	2022年の全国のブロックリーの出荷量が2002年の全国のブロックリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる	3(4) ア(ア)				3(1) ア(イ)	○			○			75.5	78.7	0.4	0.4
1（2）	都道府県Aのブロックリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く	目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる					3(1) ア(イ) 5(1) ア(ア) イ(ア)	○				○		28.7	31.0	0.7	0.9
1（3）	示された表から、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ	簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる					3(1) ア(ア)	○			○			71.0	71.6	3.0	3.5
1（4）	示された資料から、必要な情報を選び、ピーマン1個とブロックリー4個の重さを求める式と答えを書く	示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかをみる	4(6) ア(ア) イ(ア)					○				○		73.8	74.5	2.3	2.6
2（1）	示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ	平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる		4(1) ア(イ)				○				○		55.1	58.3	0.9	1.2
2（2）	方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		4(1) ア(イ)				○			○			51.1	50.2	0.5	0.7
2（3）	角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ	角の大きさについて理解しているかどうかをみる		4(5) ア(ア)				○			○			80.3	79.3	0.9	1.0
2（4）	五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く	基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる			5(3) ア(ア) ※			○				○		36.2	37.0	1.9	2.7
3（1）	0.4+0.05について、整数の加法で考えるときの共通する単位を書く	小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる	4(4) ア(イ) ア(ウ)					○				○		73.1	74.1	2.4	2.8
3（2）	3/4+2/3について、共通する単位分数と、3/4と2/3が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	5(5) ア(ア) イ(ア)					○				○		21.9	23.0	14.2	15.7
3（3）	数直線上に示された数を分数で書く	数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる	3(6) ア(ア) ア(イ)					○				○		34.2	35.0	7.2	7.8
3（4）	1/2+1/3を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる	5(5) ア(ア)					○				○		83.3	81.3	3.6	4.1
4（1）	新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ	伴って変わる二つの数量の關係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる	3(4) ア(ア)			4(1) イ(ア)	5(2) ア(ア)	○			○			82.2	82.8	2.5	2.6
4（2）	使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く	伴って変わる二つの数量の關係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りた数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	3(4) ア(ア)		3(1) ア(ア)	4(1) イ(ア)	5(2) ア(ア)	○				○		45.7	48.7	2.8	3.4
4（3）	はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む	はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる			3(1) ア(イ)			○				○		60.2	60.9	3.9	4.2
4（4）	10%増量したつかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ	「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる					5(3) イ(ア)	○			○			36.9	40.9	3.9	4.1

※本設問においては、思考力、判断力、表現力等を見るために用いる知識及び技能を示している。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



【小学校 算数】調査問題の結果から

■顕著な課題が見られた設問

- ③ (2) 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数のいくつかを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる設問の正答率は21.9%（全国比-1.1）である。数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、小数や分数の計算の仕方について統合的・発展的に考察し、数や言葉を用いて記述することに課題が見られた。

(2) ひろとさんは、分数のたし算についても、小数で考えたようにふり返っています。

まず、みおりさんは、 $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ についてまとめています。



$\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の2個分、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の1個分です。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ の計算は、 $\frac{1}{5}$ をもとにすると、2+1を使って考えることができます。

$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ は、もとにする数を $\frac{1}{5}$ にすると、整数のたし算を使って計算することができます。

次に、ひろとさんは、 $\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について考えています。



$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の3個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の2個分です。

もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数はいくらになりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

課題の改善に向けた取組

数を構成する単位に着目して、小数や分数の計算の仕方について数や言葉を用いて記述することができる学習活動を充実させる。



既習事項を振り返る



問題を解く



話し合う

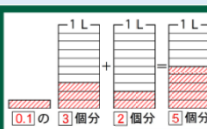


振り返る



1. 問題① $\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ について考えよう。

二つの入れ物にジュースが
0.3 Lと0.2 L入っています。
合わせると何Lですか。



0.3+0.2の計算は、0.1をもとにする数として、3+2と考えることができたということを、図を使って説明する。

$\frac{2}{5}$ Lと $\frac{1}{5}$ Lを合わせると何Lですか？

$\frac{3}{5}$ Lです。

二つの入れ物にジュースが
 $\frac{2}{5}$ Lと $\frac{1}{5}$ L入っています。
合わせると何Lですか。



$\frac{2}{5} + \frac{1}{5}$ は、もとにする数を $\frac{1}{5}$ にすると、 $\frac{2}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の2個分、 $\frac{1}{5}$ は $\frac{1}{5}$ の1個分なので、全部で $\frac{1}{5}$ の3個分になります。

2. 問題② $\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ について考えよう。

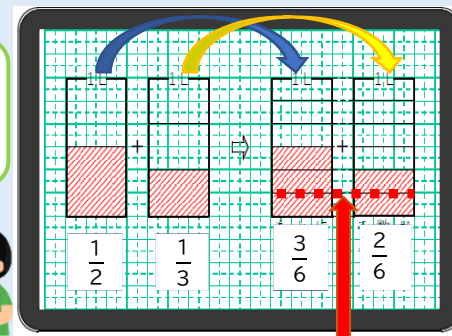
二つの入れ物にジュースが
 $\frac{1}{2}$ Lと $\frac{1}{3}$ L入っています。
合わせると何Lですか。

異分母の分数の加法について図を使うなどして、もとにする数（単位分数）のそろえ方を考える。

分母が違う分数のたし算も、小数や分母が同じ分数の時のように、もとにする数を同じにできないのかな。

$\frac{1}{2}$ と等しい大きさの分数には、 $\frac{3}{6}$ が、 $\frac{1}{3}$ と等しい大きさの分数には、 $\frac{2}{6}$ がありました。

どちらも $\frac{1}{6}$ をもとにする数にしています。
 $\frac{3}{6}$ は $\frac{1}{6}$ の3個分、 $\frac{2}{6}$ は $\frac{1}{6}$ の2個分になります。だから、全部で $\frac{1}{6}$ の5個分になります。



もとにする数がそろえるように、線を引く。

3. 異分母のたし算の仕方について振り返る。

分母が違う分数のたし算は、もとにする数をそろえ、その数のいくつかであるか考えることができましたね。

図で表すと、もとにする数をそろえれば、計算ができるということが分かりやすいです。

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	滋賀県（公立）	全国（公立）	対象児童数	滋賀県（公立）	全国（公立）
	220	18,150		12,362	936,576

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
				滋賀県（公立）	全国（公立）
全体			17	56	57.1
学習指導 要領の区 分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	45.8	46.7
		「粒子」を柱とする領域	6	50.9	51.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	4	50.8	52.0
		「地球」を柱とする領域	6	65.9	66.7
評価の観点	知識・技能		8	54.8	55.3
	思考・判断・表現		9	57.6	58.7
	主体的に学習に取り組む態度		0		
問題形式	選択式		11	54.1	54.7
	短答式		4	69.8	69.7
	記述式		2	41.7	45.2

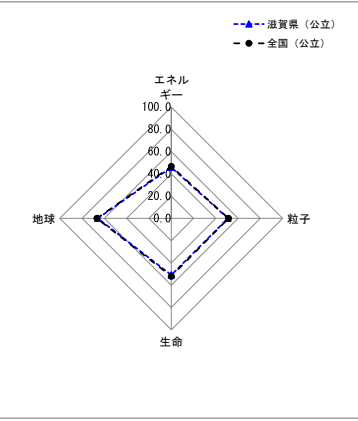
(注)「学習指導要領の区分・領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の区分・領域				評価の観点			問題形式		正答率(%)		無解答率(%)	
			A区分		B区分							滋賀県 (公立)	全国 (公立)	滋賀県 (公立)	全国 (公立)
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式				
1 (1)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる				4B (3)ア (イ)※	○		○		80.5	79.5	1.8	2.5	
1 (2)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる				4B (3)ア (イ)※	○		○		57.3	60.5	7.9	8.5	
1 (3)	【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる				4B (3)ア (イ)※	○		○		77.8	77.8	0.8	0.9	
2 (1)	アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる	3A (5)ア (イ)※	3A (4)ア (イ)※			○				9.8	10.6	0.5	0.6	
2 (2)	電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ	電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる	3A (5)ア (イ)※				○				42.0	42.9	0.5	0.6	
2 (3)	ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く	電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる	5A (3)ア (イ)※				○		○		78.7	78.0	2.7	2.7	
2 (4)	乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ	乾電池のつなぎ方について、直列につなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる	4A (3)ア (イ)※				○		○		52.6	55.1	0.6	0.8	
3 (1)	ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く	ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる			5B (1)ア (イ)※		○		○		69.1	70.7	1.0	1.5	
3 (2)	ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ	顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる			5B (1)ア (イ)※		○		○		48.3	45.6	0.5	0.8	
3 (3)	ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ	発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる			5B (1)ア (イ)※		○		○		59.7	62.0	1.4	1.7	
3 (4)	レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気付きを基に、見いだした問題について書く	レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる			5B (1)イ		○		○		26.0	29.9	10.5	11.4	
4 (1)	水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く	水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる		4A (2)ア (イ)※			○		○		50.8	50.6	5.6	6.1	
4 (2) イウ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる		4A (2)ア (イ)※	4B (4)ア (イ)※		○		○		63.9	64.2	0.9	1.3	
4 (2) エオ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる		4A (2)ア (イ)※	4B (4)ア (イ)※		○		○		56.0	57.5	1.1	1.5	
4 (3) 力	海にある水がとげることについて、水が氷に変わる温度を根拠に予想しているものを選ぶ	水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の水の面積が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる		4A (2)ア (イ)※			○		○		59.2	59.8	1.9	2.3	
4 (3) キ	水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けているものを選ぶ	水がとけてきた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる			4B (3)ア (イ)※		○		○		60.0	60.9	2.0	2.4	
4 (3) ク	海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ	「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる		4A (2)ア (イ)※			○		○		65.6	65.6	2.0	2.5	

※本設問においては、思考力、判断力、表現力等をみるために用いる知識及び技能を示している。

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



【小学校 理科】調査問題の結果から

■顕著な課題が見られた設問

- ③ (4) レタスの種子の発芽の結果から、他者の気づきを基に見いだした問題について書く設問の正答率は 26.0% (全国比-3.9) であった。
種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に新たな問題を見だし、その内容を表現することに課題が見られた。

課題の改善に向けた取組

自然の事物・現象を比較したり、児童同士が話し合ったりする中で、自分や他者の気づきや疑問を基に、差異点や共通点を捉え、新たな問題を見だしその内容を表現していくような学習活動を充実させる。

■これまでの経験や実験結果との差異点や共通点を基にして、具体的な条件に着目し、新たな問題を見いだす場面を設定する

前時を
振り返る



発芽した後のインゲンマメの種子の中にあった養分は、発芽のために使われてなくなっていたことが分かりましたね。
発芽した後のインゲンマメは、どうなっていますか。



種子には養分がなくなっているのに、このまま成長し続けるのかな。この先、インゲンマメの成長には、何が必要なのかな。



1年生でアサガオを育てたときには、元気なアサガオになるように毎朝、水やりをがんばったね。



元気に育つように日光がよく当たるところで育てたね。



インゲンマメの種子の発芽に必要な条件と、アサガオが元気に育つように工夫した点について整理してみましょう。



ポイント

これまでの経験や実験結果との差異点や共通点を基にして、具体的な条件に着目する

新たな問題を見だし表現する

インゲンマメの種子の発芽の条件と、アサガオを育てた時に工夫した点

	インゲンマメ	アサガオ
条件や工夫した点	水・空気・適した温度	日光・肥料・水

実験結果！

これまでの経験！

表に整理してみると、条件や工夫した点の中に同じものや違うものがあるよ。インゲンマメの成長に必要な条件を予想して、実験できるかもしれないね。



私は「肥料」が必要な条件なのか実験したいな。



私は「日光」が必要な条件なのか調べてみたい。



それでは、学級の共通の問題をどのようにするとよいですか。



【問題】インゲンマメがさらに成長していくためには、どのような条件が必要なのだろうか。



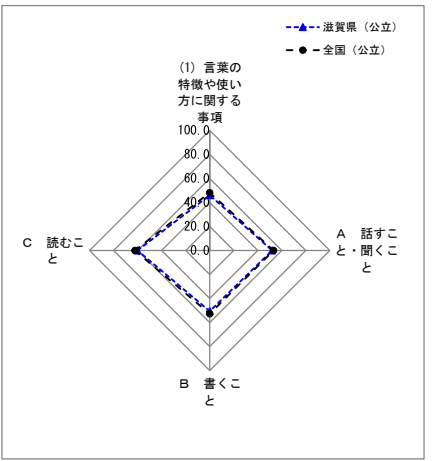
子ども同士が話し合う中で新たな問題を見いだす場面の充実を図ることで、問題解決の力を育成するとともに、問題が子ども自身のものとなり主体的な学びへとつながります。

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数		滋賀県（公立）		全国（公立）		対象生徒数	滋賀県（公立）		全国（公立）	
		99		9,244			11,476		870,560	
分類		区分		対象問題数 （問）		平均正答率（％）				
						滋賀県（公立）		全国（公立）		
全体				14		52		54.3		
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項		2		46.0		48.1		
		(2) 情報の扱い方に関する事項		0						
		(3) 我が国の言語文化に関する事項		0						
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと		4		52.0		53.2		
		B 書くこと		5		50.6		52.8		
		C 読むこと		3		60.1		62.3		
評価の観点		知識・技能		2		46.0		48.1		
		思考・判断・表現		12		53.4		55.3		
		主体的に学習に取り組む態度		0						
問題形式		選択式		8		62.2		63.9		
		短答式		2		72.1		73.6		
		記述式		4		23.0		25.3		

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点			問題形式			正答率（％）		無解答率（％）	
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			主体的に学習に取り組む態度			滋賀県（公立）	全国（公立）	滋賀県（公立）	全国（公立）
			(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	(2) 情報の扱いに関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
1一	変換した漢字として適切なものを選択する（かいしん）	文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる	2ウ						○		○	33.6	35.2	0.4	0.2
1二	ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する	目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる				1ア			○		○	81.7	82.5	0.3	0.2
1三	ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する	書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考慮することができるかどうかをみる				1イ			○		○	60.3	63.3	0.6	0.5
1四	ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる				1ウ			○		○	29.1	31.0	2.4	1.6
2一	スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				2ウ			○		○	36.6	38.1	0.5	0.3
2二	聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する	相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				1ウ			○		○	77.1	77.9	0.4	0.3
2三	「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する	自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかをみる				2イ			○		○	71.5	73.4	0.9	0.6
2四	発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				2ウ			○		○	22.8	23.2	5.5	4.0
3一	物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する	表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる					1エ		○		○	78.1	80.0	0.9	0.5
3二	「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く	文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる					2ア		○		○	88.6	89.9	5.0	4.0
3三	「しきりと」の意味として適切なものを選択する	事象や行為を表す言葉について理解しているかどうかをみる	1ウ						○		○	58.4	61.0	1.2	0.8
3四	「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそう考えた理由を書く	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる					1エ		○		○	13.5	17.1	34.9	28.1
4一	手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する	読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる					1エ		○		○	55.5	57.3	35.6	33.5
4二	手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く	読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる					1エ		○		○	26.6	30.1	23.6	19.1

【中学校 国語】調査問題の結果から

■顕著な課題が見られた設問

- ③四 「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える」設問の正答率は13.5%（全国比－3.6）であり、無解答率は34.9%である。文章の展開が、どのような効果をもたらすのか、自分の考えを文章の内容を適切に取り上げて説明することに課題が見られた。

課題の改善に向けた取組

文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考え、そのように考えた理由や意図を伝え合う学習活動を充実させる。

■【知識及び技能】の「読書」に関する指導事項を踏まえ、「読むこと」の学習と生徒の日常の読書活動とを結び付けて指導する

読書は、国語科で育成する資質・能力をより高める重要な活動の一つです。国語科の学習が読書活動に結び付くよう系統的に指導することが重要です。



この物語の予想外の終わり方をするという展開が、以前読んだ物語の展開と似ているんだけど、どうしてだろう？ 何か意味があるのかな？

そのような展開になっていることで、作品にどのような効果があると考えますか？



読者の意表を突く効果じゃないかな。展開を予想しながら読んでいくと、その通りにならなくて驚かされるから、それが筆者の意図なんだろうよ。



読者がそれぞれに物語の続きを想像するから、それも効果だといえるね。

これまでに読んだ本の中で、構成や展開が面白いと感じたことはありますか？



「読書」指導事項

- | | |
|----|--|
| 1年 | 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解すること。 |
| 2年 | 本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすこと。 |
| 3年 | 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解すること。 |

■ICTを活用して、文章の構成や展開、表現の効果について、自分の考えや意図を伝え合ったり、互いの説明を読み合ったりする

文章を読んで構成や展開、表現の効果について考える場面や、工夫して説明する場面で、ICTを効果的に活用します。

他の人がどんなふうに考えたり、書いたりしているのか知りたい。



→ クラウドやフォルダにメモやシート、文章を保存して共有し、読み合えるようにする



Aさんは文章の一部を根拠として取り上げて自分の考えを書いているけれど、どうしてこの部分を選んだんだろう？



Bさんの説明は、書いた意図が分かりやすく伝わってくるから、どうしてこの部分でこの表現を使ったのか尋ねたい。



自分では説明の仕方を工夫したつもりだけれど、読み手にとって説得力のあるものになっているのか知りたい。



→ チャットやコメントの機能により質問や相互評価を行う

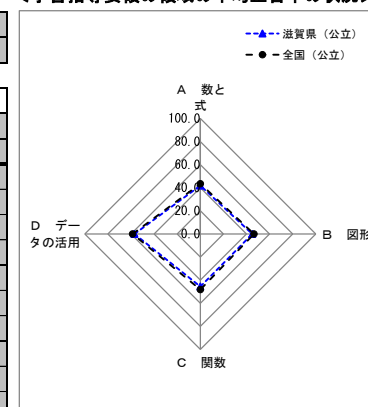
・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数		滋賀県（公立）	全国（公立）	対象生徒数	滋賀県（公立）	全国（公立）
		99	9,243		11,499	871,097

分類	区分	対象問題数 （問）	平均正答率（％）	
			滋賀県（公立）	全国（公立）
全体		15	46	48.3
学習指導要領の領域	A 数と式	5	41.9	43.5
	B 図形	4	45.0	46.5
	C 関数	3	45.6	48.2
	D データの活用	3	57.0	58.6
評価の観点	知識・技能	9	53.0	54.4
	思考・判断・表現	6	36.7	39.1
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	3	52.2	54.0
	短答式	7	50.8	52.0
	記述式	5	37.0	39.6

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率（%）		無解答率（%）	
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	滋賀県（公立）	全国（公立）	滋賀県（公立）	全国（公立）
1	1から9までの数の中から素数を全て選ぶ	素数の意味を理解しているかどうかをみる	1(1) ア(7)				○			○			29.2	31.8	0.8	0.7
2	果汁40%の飲み物a mLに含まれる果汁の量を、aを用いた式で表す	数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	1(2) ア(2)				○				○		52.2	51.9	7.7	7.3
3	△ABCにおいて、∠Aの大きさが50°のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める	多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる		2(1) イ(4)			○				○		57.3	58.1	2.4	2.0
4	一次関数y=6x+5について、xの増加量が2のときのyの増加量を求める	一次関数y=ax+bについて、変化の割合を基に、xの増加量に対するyの増加量を求めることができるかどうかをみる			2(1) ア(7)		○				○		32.3	34.7	9.1	8.0
5	ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める	相対度数の意味を理解しているかどうかをみる				1(1) ア(7)	○				○		41.6	42.5	9.8	9.4
6(1)	連続する二つの3の倍数の和が9の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める	事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうかをみる	2(1) ア(7) イ(4)				○				○		60.5	62.8	6.0	4.6
6(2)	3nと3n+3の和を2(3n+1)+1と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する	式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	2(1) イ(4)					○				○	24.2	25.7	28.7	24.9
6(3)	連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	2(1) イ(4)				○					○	43.1	45.2	24.6	20.2
7(1)	Aの手元のカードが3枚とも「グー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの1回目を行うとき、1回目にAが勝つ確率を書く	必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる				2(2) ア(7)	○				○		76.6	77.4	4.0	3.2
7(2)	Aの手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の4枚、Bの手元のカードが「グー」、「チョキ」の2枚のとき、AとBの勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる				2(2) イ(4)	○				○		52.8	55.9	2.9	2.2
8(1)	A駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取ればC駅とD駅の間の走行距離が分かるかを選ぶ	事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる			1(1) ア(7)		○			○			70.1	71.9	2.6	2.3
8(2)	A駅から60.0km地点につくれる新しい駅の運賃がおおよそ何円になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる			1(1) イ(4)		○				○		34.5	38.0	39.6	35.0
9(1)	四角形AECFが平行四辺形であることの証明を振り返り、新たに分かることを選ぶ	証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうかをみる			2(2) ア(4)		○			○			57.2	58.5	1.4	1.1
9(2)	平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取り、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとしたとき、四角形AGCHが平行四辺形になることを証明する	統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる			2(2) ア(7)		○				○		35.2	36.3	8.2	7.2
9(3)	平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取り、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとしたとき、四角形AGCHが平行四辺形になることを証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる			2(2) イ(4)		○				○		30.4	33.2	37.2	31.5

【中学校 数学】調査問題の結果から

■顕著な課題が見られた設問

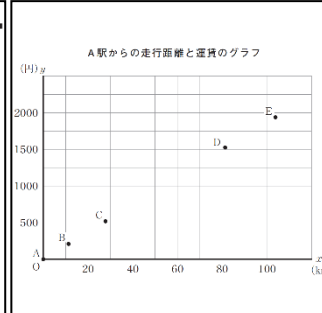
- ⑧ (2) 走行距離と運賃の関係から、グラフなどを用いて、新しい駅までの運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する設問の正答率は34.5%（全国比-3.5）である。事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られた。

⑧ A駅の近くに住んでいる歩夢さんは、C駅とD駅の間にあるスタジアムによく行きます。

歩夢さんは、スタジアムの近くに新しい駅をつくる計画があることを知り、A駅から新しい駅までの運賃がいくらかになるのか気になりました。そこで、A駅からの走行距離と運賃をインターネットで調べ、次のような表にまとめました。

調べた結果

	A駅	B駅	C駅	D駅	E駅
A駅からの走行距離(km)	0.0	11.4	27.7	81.9	104.6
A駅からの運賃(円)	0	210	510	1520	1930



(2) 歩夢さんがさらに調べると、新しい駅はA駅から60.0 kmの地点につくられることがわかりました。そこで、A駅から新しい駅までの運賃がおよそ何円になるかを予測することにしました。

A駅から新しい駅までの運賃を予測するために、前ページのA駅からの走行距離と運賃のグラフにおいて、原点にある点Aから点Eまでの点が一直線上にあるとして考えることにしました。

このとき、A駅から新しい駅までの運賃はおよそ何円になるかを求める方法を説明しなさい。ただし、実際に運賃がおよそ何円になるかを求める必要はありません。

課題の改善に向けた取組

表、式、グラフなどの「用いるもの」と、それらを問題解決するためにどう用いたかといった「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明する学習活動を充実させる。



情報を読み取る

1. 表やグラフから情報を読み取り、伴って変わる二つの数量の関係を捉える。



調べた結果やA駅からの走行距離と運賃のグラフからどのようなことが分かりますか。

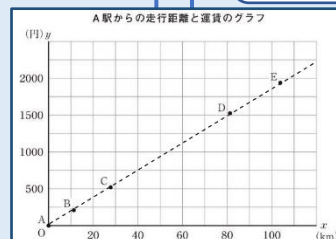
原点である点Aから点Eまでの5つの点は、ほぼ一直線上に並んでいるように見えます。



グラフが原点を通る直線になりそうなので、比例しているとみてよさそうです。



直線のグラフを用いれば運賃が予測できそうだから、ここでは比例と仮定して考えてみよう。



考えを共有する

2. A駅からの走行距離と運賃の関係を比例と仮定して、新しい駅までの運賃の求め方を話し合う。



どうすれば運賃が求められるでしょうか。見通しを話し合ってみましょう。

表の数値から1 kmあたりの運賃を求めれば、新しい駅までの運賃が求められそう。

直線のグラフをかいて、y座標を読んでも求められそう。

式をつくることできれば、 $x=60$ を代入して計算できそうです。



自分の考えを説明する

3. 立てた見通しを基に、解決した方法と結果を説明する。不十分であれば、より洗練された表現に高めていく。



はじめに立てた見通しを基に、どのように運賃を求めたのかを説明してください。

比例のグラフを基にy座標を読むと、運賃はおよそ1100円くらいでした。



グラフをどう読み取ったら1100円になるのかな。



比例のグラフでx座標が60のときのy座標を読んだよ。



グラフをどのように用いたかを分かりやすく伝えるために「点Aから点Eの5つの点の近くを通るように直線をかき、x座標が60のときのy座標を読む」のように説明を加えておこう。

・以下の集計値は、4月14日から4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。
※「予測正答率」や「問題の難易度」を示す対象としない問題については空欄となっている。

問題別集計結果（公開問題）

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域			評価の観点			問題形式			正答率（%）		無解答率（%）		問題の難易度	対象生徒数	
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	滋賀県（公立）	全国（公立）	滋賀県（公立）	全国（公立）		滋賀県（公立）	全国（公立）
1（1）	電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が流まる装置を選択する	電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(3) (7) ②			○			○			53.3	51.9	0.4	0.2	5	11,634	864,634
1（2）	「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する	身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる		(2) (7) ⑦			○			○		39.9	46.2	10.6	8.0	5	11,634	864,634
1（3）	地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する	露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさととき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる			(2) (7) ②		○		○			34.4	36.2	0.7	0.6	5	11,634	864,634
1（4）	生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する	水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる		(3) (9) ⑦		○			○			28.8	29.7	0.3	0.2	5	11,634	864,634
1（5）	塩素の元素記号を記述する	塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(4) (7) ④			○				○		41.4	44.9	10.9	8.5	4	11,634	864,634
1（6）	水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する	科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる	(2) (7) ⑦				○			○		75.1	79.4	12.9	9.9	3	11,634	864,634
2（1）	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる	(1) (7) ②				○			○		13.9	14.0	2.7	1.9	5	2,801	203,127
2（2）	「Webページの情報だけを使用して考察してよいか」について判断し、その理由として適切なものをすべて選択する	ストーリーの太さや音の高低に関する情報を収集してまとめるを行う学習活動の場面で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(1) (7) ②			○			○			94.0	94.6	0.3	0.1	2	2,801	203,127
3（1）	設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する	仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみる	(3) (7) ②			○			○			33.4	34.9	0.3	0.2	5	2,988	220,884
3（2）	抵抗に関する知識を手冊かりに、身近な電気回路に抵抗が加わっている理由を記述する	身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗が加わっている理由を問うことで、抵抗に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(3) (7) ④			○			○			82.1	85.2	0.3	0.1	2	2,988	220,884
4（1）	プロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作ったときの様子から、プロパンガス、都市ガス、空気、水の密度の大小を判断し、小さい順に並べる	ガス管配管の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識および技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうかをみる	(2) (7) ⑦			○			○			52.8	50.4	0.2	0.1	4	3,011	220,314
4（2）	「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する	火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(2) (7) ④			○			○			94.0	92.8	0.2	0.1	2	3,011	220,314
5（1）	加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する	加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いているかどうかを見る	(2) (7) ⑦			○			○			92.4	93.0	0.1	0.1	1	2,834	220,309
5（2）	実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているかを判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる	(4) (4) ⑦			○			○			37.5	35.6	5.2	4.6	4	2,834	220,309
6（1）	牧野富太郎の「ジゴク」のスケッチから分かるスケッチの技能について、適切なものを選択する	スケッチから分かることを問うことで、スケッチに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(1) (7) ⑦		(7) (7) ⑦	○			○			63.9	65.9	0.5	0.2	4	2,988	220,884
6（2）	牧野富太郎の「サクユリ」のスケッチから、サクユリの【茎の横断面】、【根】として適切なものを判断し、選択する	スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の茎、葉、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現できるかどうかをみる	(3) (4) ⑦		(7) (7) ⑦	○			○			41.5	41.9	0.3	0.1	4	2,988	220,884
7（1）	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することができるかどうかをみる	(3) (9) ⑦			○			○			34.3	34.8	0.3	0.2	5	3,011	220,314
7（2）	消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることと、同じ化学変化であるものを選択する	分解に関する身近な事象を問うことで、これまでに学習した理科の知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(4) (7) ⑦	(3) (9) ⑦		○			○			51.7	51.6	0.3	0.2	5	3,011	220,314
8（1）	大地の変化に関する言い伝えを1つ選択し、その選択した言い伝えが科学的に正しいと判断するための理由を「地層を調べたときに何が分ればよいか」に着目して記述する	地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できるかどうかをみる			(2) (4) ⑦	○			○			41.4	42.2	4.0	3.2	4	2,834	220,309
8（2）	Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようなになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す	大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかをみる			(2) (4) ⑦	○			○			17.6	18.1	1.4	1.1	5	2,834	220,309
9（1）	【予想】から学習した内容が反映されたAさんの【振り返り】を読み、Aさんの【予想】を判断し、選択する	気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見通しについて分析して解釈できるかどうかをみる			(4) (7) ⑦	○			○			31.5	31.8	0.4	0.3	5	2,801	203,127
9（2）	クリーンルームのほかに気圧を利用してしている身近な事象を選択する	気圧に関する身近な事象を問うことで、気圧の知識が概念として身に付いているかどうかをみる			(4) (7) ⑦	○			○			55.6	58.1	0.5	0.3	4	2,801	203,127

【中学校 理科】調査問題の結果から

■顕著な課題がみられた設問

- ① (2) 理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかという疑問を解決するための課題を記述する設問の正答率は、39.9% (全国比-6.3) であり、無解答率は10.6%である。身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するために課題を設定し、表現することに課題が見られた。

課題の改善に向けた取組

生徒自らが、疑問や見いだした問題を解決するための課題について表現する学習活動を、単元の始めなどに位置付ける。

■身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題が解決できるかどうかに着目し、解決可能で科学的な探究の課題を自分の言葉で表現する学習場面を設定する

探究の過程

自然事象に対する気づき



理科の実験で使用する水は精製水です。水道水は使いません。



理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？

Aさんの疑問を調べたり、実験を行ったりして解決するためには、どのような課題にすればよいですか？



「水道水と精製水の性質」にしようと思います。

性質に着目したのはよいですね。
では、Aさんの今の言葉を、疑問を解決する課題としての表現にしてみましょう。



「水道水と精製水の性質には、どのような違いがあるか。」を課題にします。

課題の設定

疑問や問題を見いだしやすい自然の事物・現象を提示し、生徒が比較することで問題を見いだすことができるようにする。
(例) 精製水と水道水

身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題が解決できるかどうかに着目して、課題を設定できるようにします。

生徒が、理科の見方・考え方を働かせ、「質的な視点」で捉えることができるようにする。
※性質に着目できていない場合は、質的な視点ができるように促す。
(例) 「水道水と精製水の何に着目したらよいですか。」

生徒が自ら課題を設定することは、生徒が主体的に課題解決するために大切です。その課題解決を通して、科学的に探究する力を育成していきます。

学校／学級別解答状況整理表(S-P表)の見方について

左から右へ、全国正答率の高い順に問題番号を記載

問題番号		2 (1)	3 (2)	2 (3)	3 (1)	1 (1)	4 (1)	1 (2)	4 (3)	4 (2)	2 (2)	1 (3)	5 (1)	3 (3)	5 (2)		
解説		A	B	A	C	D	B	D	C	B	A	C	D	C	A		
問題の概要		はじめの数が12のときの計算結果を求める	グラフから、列車のすれ違いが起これる地点のA駅からの道のりを求める	計算の順番を入れ替えたものを表し、その計算結果が何の倍数になるかを求める	列車の運行のようすがグラフで表されていることの前提となっている条件を導く	全校生徒300人に対する上位4番を回答した生徒の割合を求める	与えられたことから、新たにわかることを導く	放送計画で、1日目がA、2日目がBになる確率を求める	平行四辺形ABCDを正方形ABCOに変えたときの四角形CEFDがどのような四角形になるかを証明する	平行四辺形ABCDの外側に2つの点E、Fを取っても、四角形EBFDは平行四辺形であることを証明する	はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果はいつでも4の倍数になることを証明する	全校より10年上の回答者を引きよるくしFが選ばれやすいことを理由で説明する	8社の団体料金を表の1/2の割合で減額したとき、全体の金額がどれだけ減ったかを求める	A駅からの道のり通常料金をa			
全国(公立)正答率		89.0	76.7	37.2	66.2	54.3	54.0	41.8	41.0	40.6	35.8	24.8	14.7	12.1	8.2		
正答人数の割合		80.0	68.0	53.0	52.0	64.0	59.0	56.0	23.0	32.0	36.0	28.0	28.0	10.0	4.0		
正答人数		20	17	14	13	16	14	14	5	8	9	7	3	1			
																合計	
学年	組	問題番号	氏名記入欄	付記欄	解答類型(“0”は無解答を表す。)											正答数	正答率
3	1	0803206			1	1	1	1	1	1	1	3	1	3	8	13	95.0
3	1	0803210			1	1	1	1	1	1	1	3	1	8	8	13	95.0
3	1	0803218			1	1	1	1	1	1	2	1	9	8	7	11	75.8
3	1	0803205			1	1	1	1	1	1	7	1	8	9	7	10	71.4
3	1	0803206			1	1	1	1	1	1	7	1	0	1	7	8	71.4
3	1	0803206			1	1	1	1	1	1	7	2	1	3	1	7	71.4
3	1	0803198			00	1	1	1	1	1	7	1	8	9	1	7	64.3
3	1	0803204			1	1	4	4	1	1	9	1	8	3	1	2	64.3
3	1	0803208			1	1	1	1	1	1	1	2	8	8	8	8	64.3
3	1	0803213			1	1	1	9	1	1	8	6	8	8	9	10	50.0
3	1	0803227			1	1	1	1	1	1	0	7	8	9	12	9	50.0
3	1	0803203			00	1	1	1	1	2	1	9	7	8	9	8	42.9
3	1	0803226			1	1	1	1	9	3	1	9	7	8	9	1	42.9
3	1	0803201			1	1	2	1	9	1	5	0	8	0	9	0	35.7
3	1	0803217			1	1	4	2	1	2	9	0	7	0	4	0	28.6
3	1	0803220			1	1	4	4	0	1	3	7	7	0	4	9	28.6
3	1	0803224			1	00	4	2	1	3	00	0	2	00	2	8	21.4
3	1	0803200			1	2	1	2	1	2	00	0	7	00	8	9	21.4
3	1	0803199			1	0	2	4	2	3	1	0	3	0	0	9	21.4
3	1	0803211			1	1	5	4	9	4	0	9	3			2	14.3
3	1	0803214			1	9	1	2	9	2	9	9	7			2	14.3
3	1	0803216			1	3	4	4	1	2	9	0	3			2	14.3
3	1	0803219			0	0	0	4	1	0	5	0	0			1	7.1
3	1	0803225			00	0	4	4	9	1	9	0	8	0	0	1	7.1
3	1	0803209			00	2	4	2	0	2	0	7	0	0	0	8	0.0

P曲線：
問題ごとに、上から数えて当該学
答人数の数にあたる所を結んだ線

例) 該当設問の正答人数が「9名
から9人目のところに横線が

赤色

P曲線：
問題ごとに、上から数えて当該学校／学級の正答人数の数にあたる所を結んだ線
例) 該当設問の正答人数が「9名」なので、上から9人目のところに横線が引かれる

S曲線(青)より左側の誤答(黄色セル)

→当該児童生徒にとって比較的正答が容易だったと考えられる設問(不注意による誤答や比較的苦服が容易なものと想定される設問)

S曲線(青)より右側の誤答(橙色セル)

→当該児童生徒が理解していない可能性が高い設問(一人ひとりの児童生徒に対し、見直し・復習などの指導を行うことが有効と考えられる設問)

青色

S曲線：
児童生徒ごとに、左から数えて当該児童生徒の正答数の数にあたる所を結んだ線
例) 該当児童生徒の正答数が「4問」なので、左から4問目のところに縦線が引かれる

全国正答率
※小数点第1位を四捨五入して表示

※数字は解答類型(“0”は無解答)

※色付きセルは誤答(無解答含む)

※線が重なった場合は、以下の順で優先して表示される
縦線：青線>赤線>赤点線
横線：赤線>赤点線>青線

該当教科の全国正答率50%以上問題のうち、正答数が2分の1以下だった児童生徒の人数及びその割合(%)

高正答率分析対象	
人数	割合
23	18.1
<	5.1
>	5.7

<> 内は都道府県平均との差
() 内は全国(公立)平均との差

分析資料の活用方法(【正答数ごとの層分布(全国四分位)】について)

「正答数ごとの層分布(全国四分位)」の概要

児童生徒を正答数の順に並べ替え、4等分したときの3つの区切りの値が四分位数です。提供された全国四分位数を基に、児童生徒を4つの層(A層～D層)に分けたとき、各学力層の児童生徒数の割合を示したものが「正答数ごとの層分布(全国四分位)」です。

これを活用することにより、集団の現状を客観的に捉え、習熟にあった授業のねらいが焦点化され、手立てを具体化することができます。また、D層(学力低位層)に手だてを講じるだけでよいのかどうか等、習熟度別少人数指導や各学力層の実態に応じた教材・教具の一層の充実を図ることが可能になります。

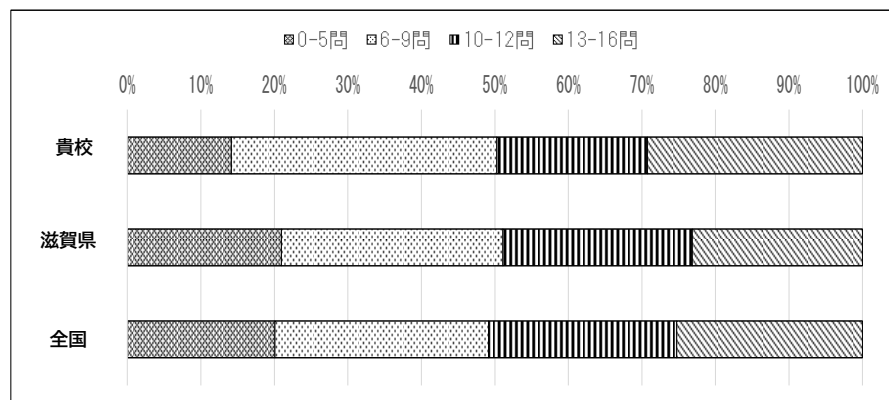
文部科学省からの提供資料 (例:小学校算数)

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴校	滋賀県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	13.0問	12.0問	13.0問
◇ 第2四分位	9.0問	9.0問	10.0問
▽ 第1四分位	7.0問	6.0問	6.0問

全国四分位数に基づいて、児童生徒を4つの層に分ける

「正答数ごとの層分布(全国四分位)」等の見方



D層
正答数
0～5問

C層
正答数
6～9問

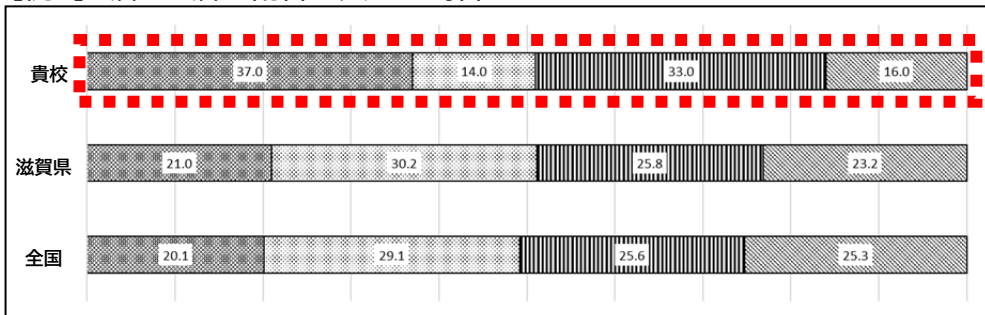
B層
正答数
10～12問

A層
正答数
13～16問

各集団のグラフ
全国・県・学校ごとの各層の児童生徒数の割合を示しています。

子どもたち一人ひとりの確かな学力を育むための具体的な活用方法例

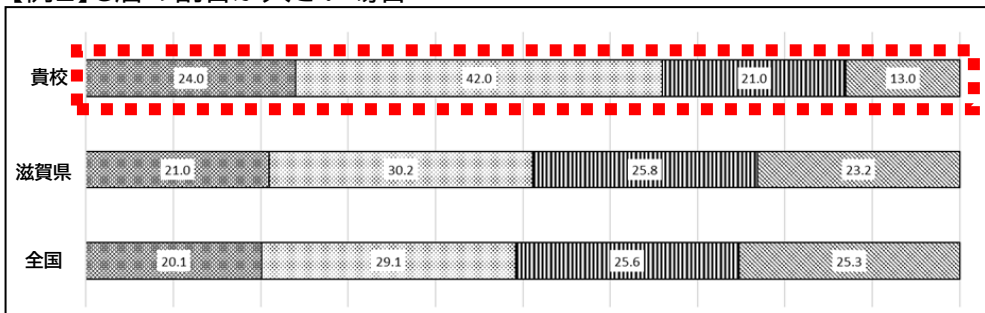
【例1】B層とD層の割合が大きい場合



習熟度別指導の工夫

算数・数学の学習で、習熟の程度の違いを踏まえた学習集団を編成し、D層の子どもがC層に、B層の子どもがA層にステップアップできるよう、学習集団に適した指導を行います。また、習熟の程度に合わせた家庭学習の工夫も併せて行います。

【例2】C層の割合が大きい場合



S-P表を活用したつまずきの分析

S-P表を活用すると、C層の子どもがどの設問でつまずき、どのような解答をしているのかを把握することができます。把握した課題に応じて、指導方法を工夫することができます。